



# GREEN LETTER

グリーンレター

**Vol. 240**

2016/10/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. カラスに追われたセミ
02. クルミをめぐるつながり



今月の一枚

**Photo**

## 「水田のナツアカネ」

表紙写真・文／鬼丸和幸

9月、美<sup>みどり</sup>禽地区の水田では、稲が黄金色に染まりました。稲のすき間を、たくさんのナツアカネたちが、真っ赤な体のオスと、黄色の体のメスがつながったまま、飛び交っていました。それはまるで、金色の稲の大海原を、体がつながったナツアカネという船が、ゆうゆうと漂っているかのような光景でした。

# Event. 今月のイベント

特別展「びほろ昔ばなし」 ～10月23日（日）

ロビー展「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～」 10月8日（土）～11月27日（日）

博物館講座（歴史編）「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～」 10月8日（土）

開館記念日イベント 10月10日（月）

プチ工房「平編みブレスレット」 10月13日（木）,20日（木）

モノ作り講座「落ち葉のランプシェード」 10月22日（土）

# Information. 参加者募集

博物館講座（歴史編）「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～」

【講演会】●10/8（土）10:00 - 12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●小川正人氏（北海道博物館）  
●申込み不要

開館記念日イベント（無料開館）

●10/10（月）9:30 - 17:00、せんべい焼き体験（10:00 - 12:00）、特別展解説・挽き立てコーヒーサービス（10:00 - 16:00）●美幌博物館 ●無料 ●美幌博物館スタッフ ●申込み不要

プチ工房「平編みブレスレット」

●10/13（木）,20（木）10:00 - 12:00, 14:00 - 16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（200円）●八重柏誠（美幌博物館）●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

モノ作り講座「落ち葉のランプシェード」

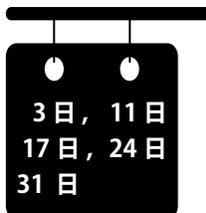
●10/22（土）10:00 - 12:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費・保険料（400円）●城坂結実（美幌博物館）●美幌博物館へ電話申込み（10/1 - 10/19）。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員16名で締切。キャンセルは10/19まで。それ以降は保険料100円がかかります。

博物館講座（自然編）「背中にマイホーム！カタツムリを知ろう」

【講演会】●11/12（土）16:00 - 17:30 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●森井悠太氏（北海道大学）●申込み不要 【観察会】●11/13（日）9:30 - 12:30 ●町内（集合解散は美幌博物館）●保険料（100円）、野外で活動できる服装、帽子、長靴、雨具 ●森井悠太氏（北海道大学）●美幌博物館へ電話申込み（10/1 - 11/9）。キャンセルは11/9まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員25名で締切。荒天時は室内学習を実施します。

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

今月の休館日



## カラスに追われた セミ

写真・文／鬼丸和幸



前号に続き、セミの話題です。これまで美幌町内では、4種類のセミの仲間が確認されていましたが、その中の1種であるエゾゼミは、発見例が極めて少なく、どんな場所で生活しているのか、ずっと知りたいと思っていました。

7月下旬「裏玄関付近に落ちていました」と、職員がセミを拾ってきました。そのセミはエゾゼミでした。「こんな場所に…」と驚きましたが、その後、度々同じ場所で、生きているエゾゼミが見つかりました。特に、台風11号が美幌町を通過した翌朝には、6匹ものエゾゼミが落ちていました。こんなことは、これまでなかったことです。

7月の博物館講座「美幌のセミを知ろう！」の観察会では、博物館の裏に広がるみどりの村森林公園で、多数のエゾゼミの抜け殻が見つかり、この森

でエゾゼミが生活していることが判明しました。さらに、8月下旬には、みどりの村森林公園とつながっている昭野地区の森でも、エゾゼミの抜け殻や成虫の姿が確認されました。これらにより、美<sup>みどり</sup>禽地区から昭<sup>あきの</sup>野地区にかけて、エゾゼミが生活している地域であることがわかりました。

さて、博物館裏に度々落ちていたエゾゼミですが、早朝、博物館裏の森の上空でカラスに追われ、博物館玄関に落ちてしまう光景を、何度となく目にしました。中には、カラスにつつかれ、体が無残にもバラバラになっていた死骸もありました。カラスに追われたり、大風で吹き流されたりして、迷いこんだのかもしれませんが。また、今年は天候の影響か「例年よりセミが多い」という声を、よく耳にしましたが、そんなこともエゾゼミが多く見られた原因なのかもしれません。

## 02 GREEN COLUMN グリーンコラム



# クルミをめぐる つながり

写真／金指功・文／城坂結実



**毎**月第2・第3木曜日（8月の  
み第1・第2木曜日）は、博物館で「プチ工房」を開催しています。月替りで様々なモノ作りを体験できるので、小さなお子様から大人の方まで、幅広い年代の方にご好評いただいております。

先月のプチ工房は「意外とカンタン！草木染め」と題し、自然の植物を使った草木染めを行いました。染料の素材は、美幌町内で採ったクリのイガやオニグルミの実、オオイタドリの根。これらを水からコトコト煮出して、木綿の布を染めます。染料の素材によって色は異なりますが、同じ素材を使っても、人によって少しずつ色合いが変わるのが、草木染めの不思議で面白いところです。

染料の素材の一つ、オニグルミの実は、秋に茶色くなる前の青色の実の外皮を使います。オニグルミは高さ

10mほどになる木なので、高枝切りバサミを使い、青い実のついた枝を切り落としながら採集します。ある日、木を見上げながらクルミの実を採っていると、ガサガサという音がし、エゾリスが姿を見せました。ジッとこちらを見ているその表情は、大事な食料であるクルミを横取りしている私を、うらめしそうににらんでいるよう。その姿に少し申し訳なく思う反面、エゾリスと気持ちのつながりができたようで、うれしくも感じました。

意外なところでも自然とのつながりを感じられる、草木染め。来年もまた挑戦してみたいと思います。みなさんのご参加をお待ちしております。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 ( 72 ) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

## 学芸員のつぶやき



博物館にいらしたお客様に「館内がキレイだね」と、声をかけられることがあります。館内の掃除をしてくださっているのは、3名の清掃員の方。先日、社内の優良事業所コンクールで、北海道1位に選ばれたそうです。いつもキレイに掃除をしていただき、ありがとうございます！（城坂）